

こんにちは。

11月末、ついに日本に無事帰国いたしました。期待と不安を抱きつつ始まった10か月間の留学生活も、長いようであつという間でした。最初の数か月は、自分の英語力の低さに絶望し、友達作りに悩み、さらに英語を第二言語として話すホストファミリーとのコミュニケーションに少し戸惑いを感じていました。時間が経つにつれて、自分の考えを言語化して伝えられるようになったり、日本の文化に興味がある生徒が話しかけてくれたりして、友達との学校生活やホストファミリーとの生活に少しずつ慣れてきました。それからは毎日が本当に楽しく、学校から出される課題に追われながらもオーストラリアでの留学生生活を堪能しました。

新型コロナウイルスが世界問題になる中で、無事に10か月間の留学生生活を終えられたことを本当にありがたく思います。オーストラリアでは感染拡大防止のため、4月ごろに一定期間、学校や商業施設が閉鎖されていたり、zoomを使用してのオンライン授業を行ったりしていたので、爆発的に新型コロナウイルスが流行することはありませんでした。

しかし、帰国直前にアデレードで新型コロナウイルスの集団感染が発生し、私の通っていたウッドビル高校からも一人の生徒がPCR検査で陽性の結果を受け、帰国前最後の登校日に学校が閉鎖されてしまいました。私はこの日に先生や友達に挨拶をしたり、感謝の気持ちを伝えたりするつもりでいましたが、前日の放課後にこの件について知ったので、何もお礼ができないまま帰国することになりました。これはアデレードを出発する二日前の出来事でした。次の日の朝いちばんでホストファミリーとPCR検査を受け、家族全員が陰性だったので、無事に他の次世代生とともに予定通り帰国することができました。また、アデレードからシドニーの空港に入る際、ウッドビル高校に通っていたこと・PCR検査を受けて陰性の判定を受けたこと・私が入っていたYear10の生徒は自宅隔離の対象にはなっていないことを空港職員の人たちに説明し、無事にトランジットできたとき、自分の英語力の上達を実感しました。

このように、アデレードを出発するギリギリまで本当に慌ただしかったので、帰国する実感があまりなく、気が付いたら経由地であるシドニーに到着していました。この突然の出来事にも柔軟に対応してくれたホストファミリー、バイリンガルカウンセラーの方、次世代事務局の方や現地校の先生には感謝しかありません。最後の最後に周りの人々の優しさに触れ、改めてこの留学生活を通して素敵な人々に出会えたことを嬉しく思いました。また、このことを通して、常日頃から関わった人たちへ感謝の気持ちを伝えようと心に決めました。最後の日に学校の先生や友達に挨拶しようと思っていたために、結局感謝を伝えられずに帰国したことをとても後悔しているので、普段から感謝を伝えることがいかに大切なことなのかを痛感しました。